

拝啓 今年も早や 10 月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。不純な夏が終わり、秋がやってまいりました。今近所の公園では、木々の紅葉の準備が始まりかけました。

今回は、内村鑑三先生の『統一日一生』からの引用の 7 回目です。

内村鑑三先生は、聖霊を実に豊に受けられた方だと思いますが、7 月 30 日のところには次のように書かれています。

「キリストは聖霊である。聖霊はキリストである。ゆえに聖霊を受くるはキリストを迎えるのである。…準備は、へりくだる事である。方法は、絶えず祈る事である。しかして、この準備をなし、この方法を尽くして、彼の入来（じゅらい）は確かである。」絶えず祈ることを、小西先生の勧められる称名という凝縮されたお祈りで行えば、いつでもどこでもできます。「常住坐臥時節の久近（くごん）を問わず」であります。

清瀬にある救世軍清瀬病院の院長をされている島田宗洋さん（私の東大YMCA時代の友人）がドイツ語から翻訳された「私たちはどんな死に方をしたいのか」という本の出版を引き受けてくれる出版社がなく、教文館を紹介してあげたところ、引き受けてくれて、10 月 10 日に出版されました。ドイツの救急医・ホスピス医のリッターさんというお医者さんが、事例を紹介しながら、終末期には、先端医療技術ではなく、人間としての患者の幸せに視点を合わせた治療、緩和ケアが行われるべきだ、患者のリビング・ウイル（尊厳死の意志）が尊重されるべきだという主張の本ですが、名著、名訳だと思います。この本の出版がきっかけで、島田さんが今井館の高円寺東集会に参加して下さるようになったこともありがたいことです。

今年は、7 月、8 月天候が不順で、登山の計画を 2 回も伸ばしていたため、9 月から 10 月にかけて、茅が岳と谷川岳と 2 回登山をしました。谷川岳は、ふもとの山荘に泊まり、早朝出発、昔学生時代に登ったマチガ沢沿いの巖剛新道・西黒尾ルートで登り、ロープウェイで下山しました。高度差 1300m の急峻な尾根でしたが、時間はかかりましたが、何とか登れて愉快でした。途中雨も少し降ったのですが、頂上では曇り空のもとで、富士山、秩父、南アルプス、八つが岳、尾瀬などの山々の遠望がきいて感激しました。

10 月 15 日、我が家で、薛恩峰先生を囲む会を開き、皆さんに私がいつも歩いている散歩コースを歩いていただきました

季節の変わり目、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成 28 年 10 月 24 日

山口周三

エンカウターの読者各位